〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経済演習Ⅱ	4単位	演習科目
〔担当者〕 木立　力		〔授業の方法〕 演習

〔演習テーマ〕

物価と賃金

〔演習内容〕

年収の壁が変更され税制が歪められました。これほど注目された原因は実質賃金の低下であったと考えられます。今年度は所得税制を簡単に振り返ったあと、日本の今後の実質賃金の変化について考察します。

〔科目の到達目標〕

過去 30 年にわたって上昇しなかった日本の物価と名目賃金について教科書を読むことで理解を深める。

〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○						○

〔前提条件〕

経済演習Ⅰ、ミクロ経済学、マクロ経済学を履修済であること

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

輪読においての報告内容、議論への参加状況

〔教科書等〕

脇田成(2024)『日本経済の故障箇所』、渡辺努(2024)『物価を考える』

〔実務経歴〕

費用便益分析を行う研究所に勤務経験あり

授業スケジュール

時期	テーマと内容
春学期 1 回目	「年収の壁の誤解」 多くの著名な経済学者が指摘するように年収の壁を巡る政争は合理性を欠いたものでした。いかに税制を歪めたかを解説します。
春学期 2 回目 以降	「論争の原因」 これほど年収の壁が注目された原因は 30 年ぶりの物価上昇による実質賃金低下であったと考えられます。脇田成(2024)『日本経済の故障箇所』を輪読し、日本での長期にわたる労働分配率低下、労働生産性の変化、企業貯蓄増加、海外直接投資について高齢化と関連させて理解を深めます。適宜論文などで補足解説します。
秋学期	「物価と賃金のノルム」 日本では 1995 年頃から物価と賃金がどちらも 30 年近く大きな動きを示しませんでした。なぜ大きく動かなかったのか、これから実質賃金は上昇するのか、について渡辺努(2024)『物価を考える』を輪読し、考察します。